

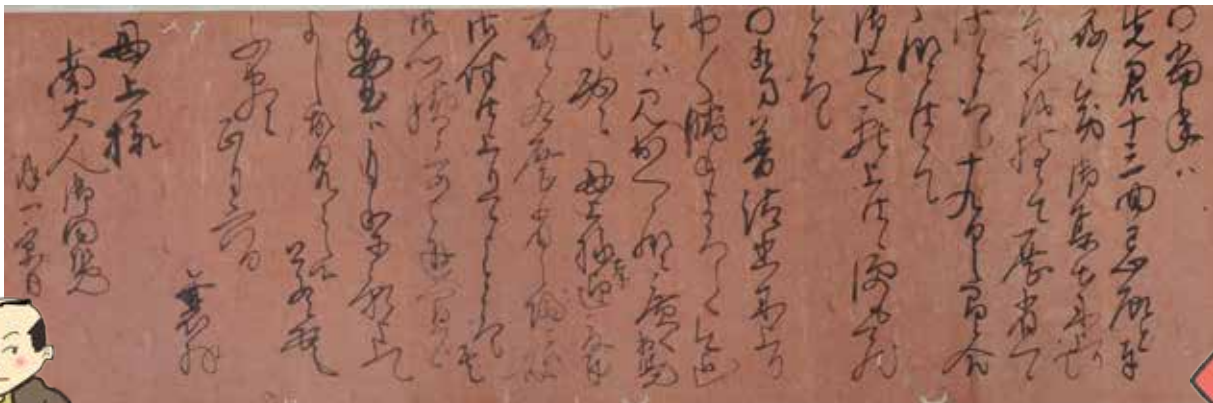
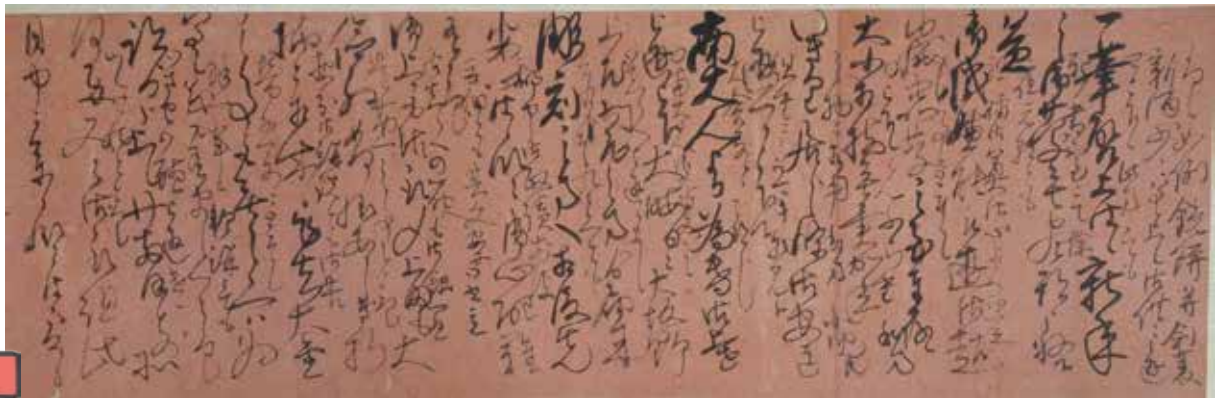


# しろや！ 広島城

No.59

## 母上さま、お元気ですか～？

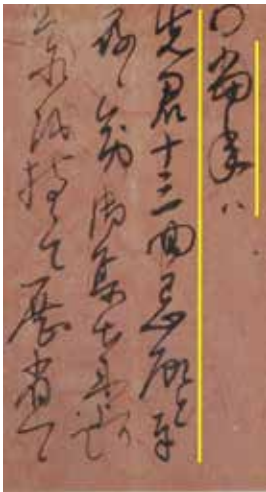
広島城には多くの資料が収蔵されています。その資料は、常設展示や企画展で活用しているのですが、今回みなさんにご紹介する資料は、江戸時代後期の漢学者で文人の頼山陽が母へ宛てた手紙です。今まで何が書かれているかよくわからず、長い間収蔵庫で眠ったままになっていました。ではこの中身を、「山陽くん」に案内してもらいましょう。頼山陽の人物像が少し見えてくるかもしれません。



山陽くん

「一筆啓上仕候 新年之御慶・・・」から始まるこの手紙は、正月6日に広島におる母上（梅麿）や叔父上の南大人（杏坪）、長男の餘一（聿庵）へ年始のあいさつとしてわしがしたためたものじゃ。ま、年賀状じゃな。この時わしは京都に移り住んでおり、塾を開いていた。手紙はあいさつとともに家族らの近況報告をした後、亡くなった父上（春水）

の詩文など遺稿を集めた書籍（『春水遺稿』）の出版の進捗状況について伝えているんじゃ。叔父上がせっかく広島の殿様にお願ひして資金を融通してもらい、大坂まで届けてくれて順調に進んでいたんじゃが、この時期、世間はものすごく不景気で、お金がかかってしまい、まだ足りないということでもう二十両今月中に送ってほしいと頼んどるんじゃ。



ところでこの手紙、差し出した月日は分かるんじやが、年号（いつの年か）が書かれておらん。が、ここを見ても。「当年ハ先君十三回忌辰と奉…」とあるじやろ。先君とは父上のことじや。今年ハ父上の13回忌だということだから…亡くなったのが、文化13年

(1816)なので、文政11年(1828)というのがわかるんじや。この後の文章には、みんなが集まる法要の席で完成を披露し、墓参りしたいことや、早々に出来上がった暁には殿様へ献上も考えているということについて伝えておる。おかげさんで無事2月に出版することができ、父上の功績を多くの人々に紹介することができた。



さて次は、わしが最後に住んだ家に離れを増築したことについて書いとる。わしは、京都ではあちこち移り住んで、結局6回も引っ越したんじや。その家は、京都の街の北東、丸太町橋の西詰にある。上の写真の建物が離れで現在「山紫水明処」と呼ばれとる。母屋はもう無くなってしまっておるが、書齋とかに使ったここだけが残とる。部屋は四畳半と二畳、そして半坪ほどの板間だけのこじんまりとしたものじや。見た目の派手さはないが、室内に入ると結構わしのこだわりがあるんじや。その一つが、ここからの眺め。京都の東側に連なる比叡山や如意ヶ嶽（大文字山）などの東山三十六峰が一望できる。また、手前には鴨川が流れており、そのすばら



「山紫水明処」  
室内の様子



しい景色は最高なんじや！今では護岸のため、家から川が少し離れてしまい、山々も目の前に大きな建物ができており、眺望の良さが全く失われてしまった…悲しい限りじや。昔は、この場所にわしを慕ってたくさんの人が集まって、美しい風景を愛でるとともに煎茶を楽しんだし、酒盛りもした。ま、酒の方がメインじゃったがのう。ところでこの離れの呼び名となつとる「山紫水明」という言葉は、「<sup>やばけい</sup>耶馬溪」と同様、わしが造った言葉なんじや！（「しろや！広島城」No.56参照）ももとは、山が紫色に、水面がキラキラ輝くように見える時間帯、夕暮れ時のことを意味するものとして使っておったのじやが、次第に美しい景色のことを言うようになったんじや。今では辞書に載つとるから、一度調べてみたらええ。



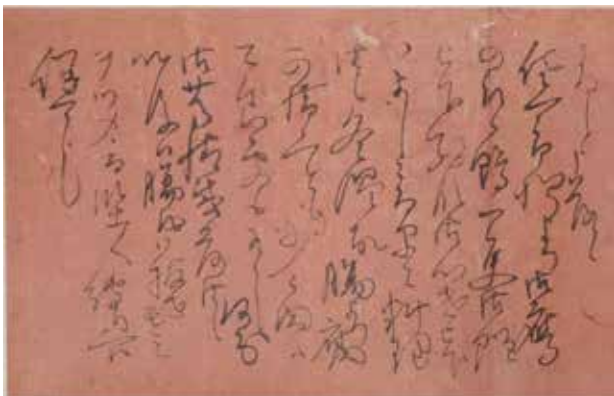
室内から東山の眺め

このほかのこだわりとしては、天井は葎よしをきれいに並べて化粧屋根裏にしたり、壁や建具の腰部分を竹網代あじろにしたりしたことじや。特に障子には、当時珍しいガラスをはめ込ん



だりして、結構手間暇と金をかけて贅沢ぜいたくに造った。ここが出来上がったことがものすごくうれしくてな、だから母上に、快適でええ離れができたから、ぜひとも父上の墓参りの後、一緒に京都に戻り、遊びにお越しくださいって書いたんじゃ。

手紙はいったんこれで終わるはずじゃったが、うっかり伝え忘れていたことが多々あってな、この「尚々申落候なおなおもうしおちそうろう…」からいろいろ書き足しておる。あまりにも書くことが多くてな、用意しとった紙では足らんようになって、はじめの方の文章の間に書き足しとる。ごちゃごちゃして、ちょっと読みにくくなってしまったがの…



まず、叔父上の長男佐一郎さいしん（采真）君から鷹狩で獲れた鴨のおすそ分けがあったこと。とてもありがたいことじゃったが、冬場とはいえ少々暖かい日が続いとったもんで、到着

した時には内蔵の方から腐り始めとったんじゃ。辛うじて少し食べるところが残とったんじゃが、せっかくのご馳走だったのに、ものすごく残念に思ってしまった、今後同ような機会があるときは、ちゃんと内臓を取り除き、そこにモミ殻を詰めるようにして欲しいと、細々と長期の保存方法を伝授したんじゃ。

また、鏡餅いたみと伊丹（現在の兵庫県伊丹市）の酒「剣菱けんびし」の新酒を、新年の御供として贈ったことを書いとる。わしは実家で祭礼などの行事がある時には、よく伊丹の酒を送ったんじゃ。「丹釀たんじょう」と呼ばれるこの酒が大好きで、剣菱などを好んで飲んどった。因みに剣菱は、神戸の灘なだに醸造場所が変わったが、今でも造られておる。いかんいかん、急にまたうまい酒を飲みたくなって来たわい…

それから、てんぷらをいただき、友人の大含だいがん（雲華上人）が旨いものがあると大喜びしたことなどなど…書き始めると筆が止まらなくなってしまったな。

そういえば、先ほど紹介した京都の離れ「山紫水明処」は、国の史跡となっており、今でも見学することができる。みんなも興味を持ったら、是非見に来てつかあさい。ただし、見学は事前予約が必要だから注意してくれえの。

（山脇一幸）

（読み下し）

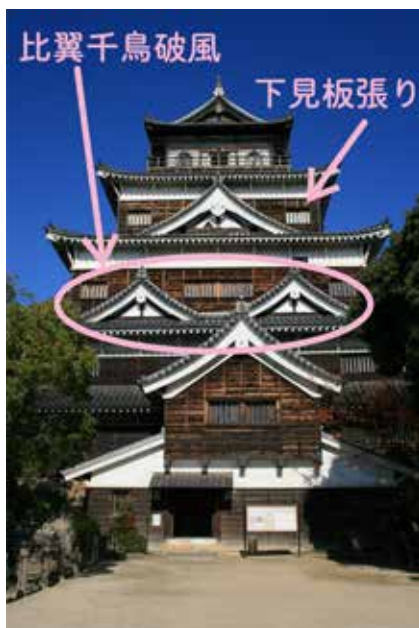
<p>不盡 草々頓首 正月六日 裏拝</p>	<p>御上へ献上仕候便も可然 候様二仕候ハ、 仕と存候十九日之間二合 それを持候て展省可 先君十三回忌辰と奉 ○当年ハ 月中二参候様二仕度候 何卒又候御取組此 跡より申上候廿兩ほどの所 差義も有ましくと存候 之事二も無之候へハ為 柄二相成候乍去大金 御上二モ御取メ上田も大 有存候 安心仕候段之御心配難 彫刻之方へ相渡先 上屋問屋之方より届来 被遊被下大晦日二大坂野 南大人より為替御上せ 被遊可被下候 いさ里居申状條御安意 大小相揃無異加年小児共 歳恭慶之至奉存候私方 益御機嫌能被遊御超 之御慶無盡期申収候</p>	<p>○私方普請出来上り 中候勝手よろしく今迄 とハ見かへ候様二広く相覚 申候必ニ母上様奉迎度奉 存候右展省之帰ニハ必 御伴掛上り可申と存候其 委曲ハ自梨影申上候 よし故畧之候 不盡 草々頓首</p>	<p>母上様 南大人御同覽 餘一寓目 尚々申落候 佐一郎様より御鷹 の取候鴨一隻御贈 被下列段御心遣被下 候よし之而早々料理 仕候冬温故腸より腐 可憐候へとも少々肉ハ 可食處も有之何分 御芳情感荷仕候 以後ハ腸材御拔せモミ ヲツメ候而堅く縛り候へハ 保可申候</p>	<p>○尚々如例鏡餅並劍菱 新酒少々差上候御供二被遊 新書二も 夜之朝とも 祖称御莫仕心よく迎年 申候事二御座候 ○被下候てんふら重 之物二相用私方 組重ニハウマキ物アルト 大含など喜申候 ○南大人御詩文之 御志らへ被遊候よし 郡中御政蹟前後 巨細とも其文案御書立 是第一之筋も御録置 夜分御講説とも御苦 勞千万ニ御座候 餘一輩之輪講二ても 御させ御聴被遊遺候 ハ、可然と存候</p>	<p>一筆啓上仕候新年 之御慶無盡期申収候 益御機嫌能被遊御超 歳恭慶之至奉存候私方 大小相揃無異加年小児共 被遊可被下候 いさ里居申状條御安意 南大人より為替御上せ 被遊被下大晦日二大坂野 上屋問屋之方より届来 彫刻之方へ相渡先 安心仕候段之御心配難 有存候 御上二モ御取メ上田も大 柄二相成候乍去大金 之事二も無之候へハ為 差義も有ましくと存候 跡より申上候廿兩ほどの所 何卒又候御取組此 月中二参候様二仕度候 ○当年ハ 先君十三回忌辰と奉 存候旁御集出来上り候ハ、 それを持候て展省可 仕と存候十九日之間二合 候様二仕候ハ、 御上へ献上仕候便も可然 と存候</p>
------------------------------------	---	--	---	--	---

# はじめまして！「しろうニャ」です★

広島城は、平成30年（2018）に再建60周年を迎えました。そこで、還暦を記念して、ちゃっかりと新しいキャラクターが誕生。その名も、シロねこのしろうニャさんです！

「しろうニャ」という名前は、市民の方からの公募で決定したものです。6月3日のメモリアルデーで名前を募集したところ、なんと100票もの投票があり、その中から決定しました！たくさんの投票、ありがとうございました！

広島城の天守をかぶっとるんよー



## プロフィール

- なまえ／しろうニャ
- 種族／シロねこ（城猫）
- 誕生日／6月1日

広島城に住む謎のねこ・シロねこ。チャームポイントは、比翼千鳥破風にみせかけた耳と下見板張り風の首輪らしい。お城や歴史のことを親切に教えてくれる。

さて、昨年末あたりから少しずつ露出しはじめたしろうニャさん。今回の「しろうや」で晴れて正式デビューとなります。今後も、イベントや企画展、しろうや紙上などで、広島城の魅力を発信していく予定です。普段は広島城天守閣の第二層、武家屋敷のコーナーに出没中。写真も撮れますので、ぜひ会いに来てくださいね！

広島城にはこれまでもたくさんのキャラクターが存在していて、群雄割拠の様相を呈しています。まさにキャラクター戦国時代！果たして、しろうニャさんは生き残れるのか…！？  
みなさま、応援の程よろしくおねがいしますニャ🐾 （吉田文）

しろうや！

広島城

編集・発行  
公益財団法人広島市文化財団  
広島城

〒730-0011  
広島市中区基町21-1  
電話：082-221-7512  
FAX：082-221-7519

平成31年2月22日発行

広島城利用案内

開館時間：9：00～18：00

（12月～2月は9：00～17：00）

入館の受付は閉館の30分前まで

入館料：大人370円（280円） 中学生以下無料

高校生相当・シニア（65歳以上）180円（100円）

（ ）内は30名以上の団体料金

休館日：12月29日～12月31日（臨時休館あり）

ホームページ <http://www.rijo-castle.jp>